



地 方 創 生



千葉県
人口ビジョン

CHIBAちび

千葉県人口ビジョン

はじめに



我が国の人口は、2008年をピークに減少局面に突入しており、本県の人口も、中長期的には減少が見込まれています。

こうした状況の中、急激な人口減少に歯止めをかけ、地域の活力を取り戻す「地方創生」を実現するためには、本県の「強み」を生かして、市町村、県民の皆様、企業や団体の方々と一丸となって、取組を進める必要があります。

本県は、東京圏に位置し、豊かな自然環境や魅力ある観光地、優れた都市機能とともに、成田空港や東京湾アクアラインといった世界に誇れる社会基盤、全国でも有数の農林水産業・商工業などの産業構造を有しており、様々な「ポテンシャル」や「宝」に溢れています。

これらを最大限に活用することにより、千葉県という空間全体で、様々な価値観を持つ方々に、地方創生の実現に向けて重要となる「働く場」や「子育ての場」、「住まいの場」「憩いの場」を提供できる「総合力の高さ」、これこそが本県の「強み」であると考えています。

このたび、県では、県人口の現状と将来展望を示す「千葉県人口ビジョン」と、今後5年間の目標や施策の方針をまとめた「千葉県地方創生『総合戦略』」を策定しました。

今後は、この「人口ビジョン」及び「総合戦略」に基づき、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技の本県開催を絶好の機会として捉え、本県の「強み」を生かして、各地域の活性化を図り、本県の発展の礎となる基盤をつくり上げるとともに、若い世代の希望がかなえられる魅力ある雇用の場の創出や、安心して子どもを産み育てられる環境の整備などに、着実に取り組んでまいります。

県民の皆様が「千葉で生まれて、住んで、働けてよかった」と誇れるような「暮らし満足度日本一」の千葉をみんなで作くり上げ、光輝く千葉をしっかりと次の世代に引き継いでまいります。

平成27年10月

千葉県知事

森田 健作

千葉県人口ビジョン 目次

I 千葉県の人口の状況分析…………… 1

(1)人口及び年齢別人口構成の推移…………… 2

①総人口の推移…………… 2

②少子高齢化の進展…………… 3

(2)人口動態の分析…………… 5

①自然増減…………… 5

②社会増減…………… 10

③県内各地域の状況…………… 13

④産業人口の状況…………… 15

⑤人口減少が将来に与える影響…………… 17

(3)県民の希望(アンケート調査より)…………… 18

II 人口の将来展望…………… 23

◆目指すべき将来の方向

①地方創生に向けた本県の基本的な考え方…………… 24

②目指すべき将来の方向…………… 26

③千葉県の将来人口…………… 27

I

千葉県の人ロの 状況分析

- (1)人口及び年齢別人口構成の推移…… 2
- (2)人口動態の分析…… 5
- (3)県民の希望(アンケート調査より)……18

(1)

人口及び年齢別人口構成の推移

① 総人口の推移

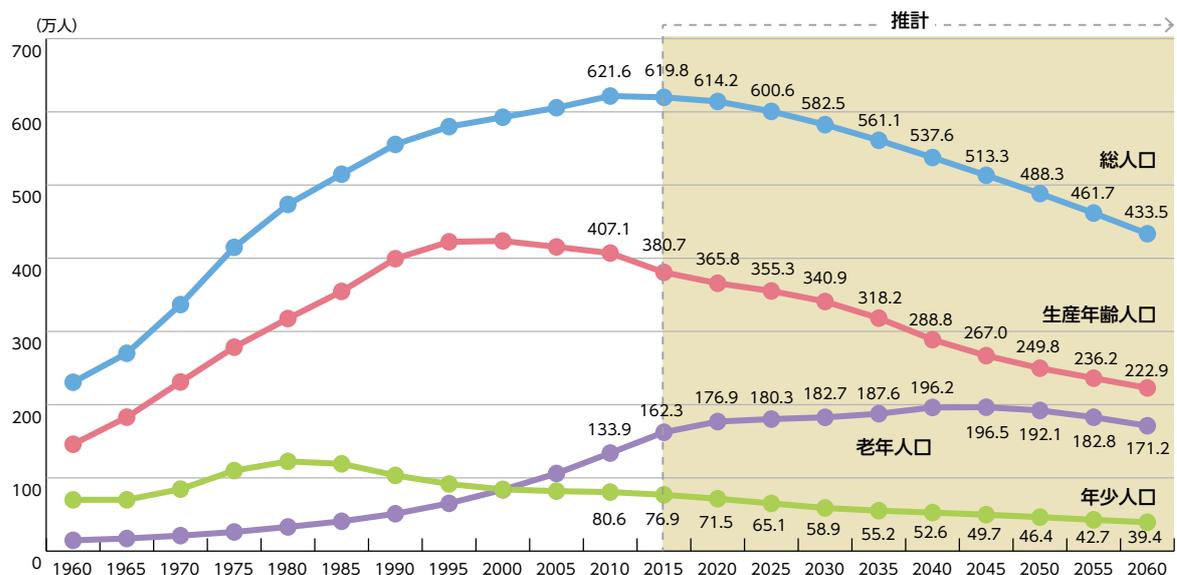
本県の総人口は、2010年の621.6万人をピークに、2011年には人口が減少したが、その後2014年に改めて増加した。

なお、今後については、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の将来推計に準拠し、一部再計算を行った推計^{*1}(以下「社人研推計(一部再計算)」という。)では、2060年には433.5万人と、2010年からの50年間で約188万人、30.3%減少し、生産年齢人口^{*2}については407.1万人から222.9万人と、45.2%減少する見込みとなる。(図1)

※1…社人研の推計では、千葉市中央区・稲毛区、柏市、我孫子市、浦安市の5市区においては震災の影響が10年続くものと仮定して推計を行っているが、既に人口動態は回復基調にあることから、社人研推計より早期に震災以前の趨勢に戻ると仮定し再計算を行った。

※2…「生産年齢人口」とは15歳から64歳までの人口である。
また、「年少人口」は0歳から14歳までの、「老年人口」は65歳以上の人口である。

図1 総人口及び年齢3区分別人口の推移



資料：総務省「国勢調査」、「人口推計」、社人研「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(一部再計算)
(2040～2060年は、まち・ひと・しごと創生本部提供資料に基づき算出したもの。)
(端数処理の関係で、3区分の和が、総人口に一致しないことがある。)

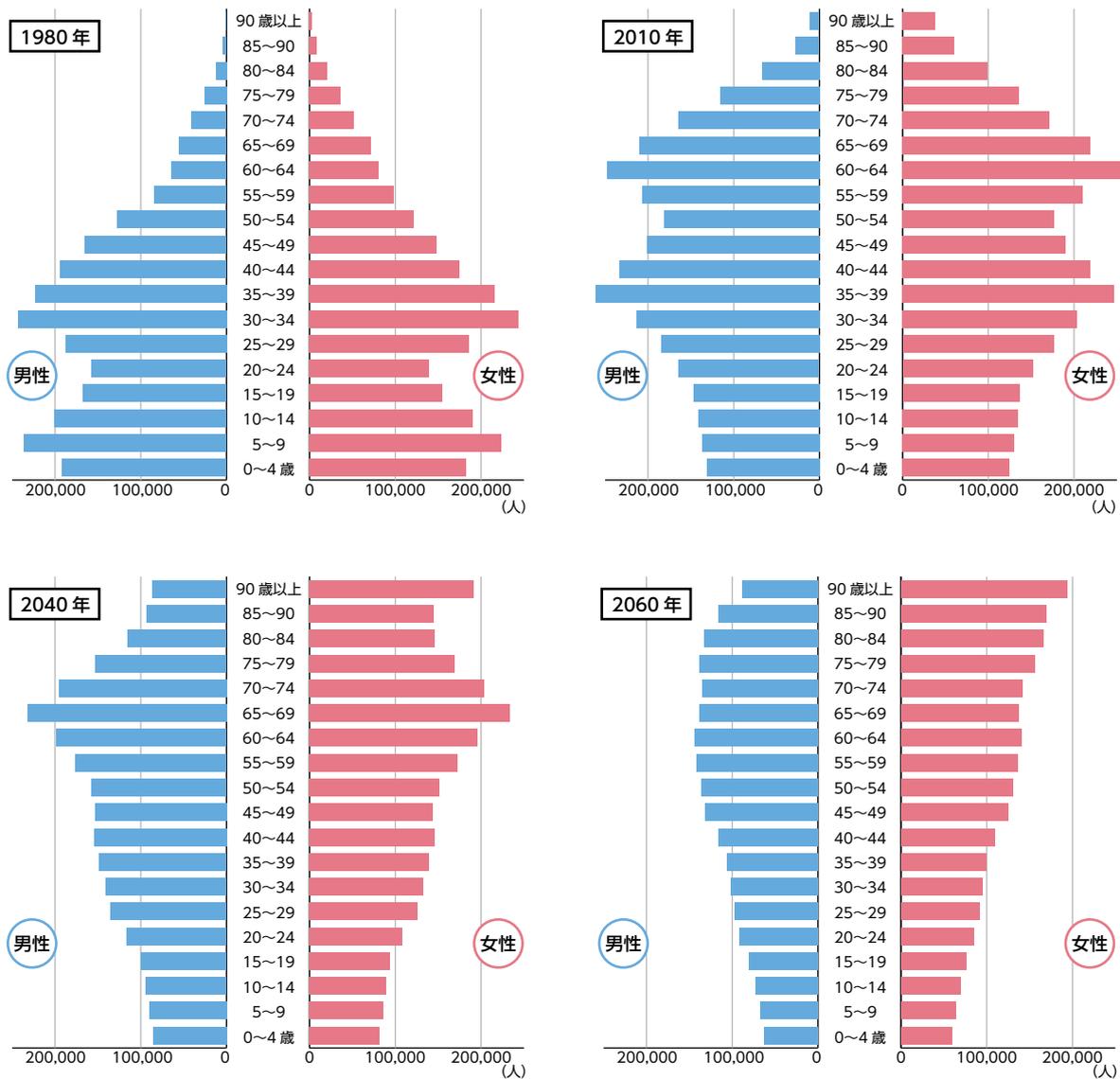
② 少子高齢化の進展

○年齢別人口構成

本県の年齢別人口構成についてみると、1980年には年少人口が25.9%、生産年齢人口が67.1%、老年人口が7.0%と、ほぼピラミッド型を形成していたが、2010年には、1980年に比べて、年少人口が12.9ポイントの減少(13.0%)、老年人口が14.5ポイントの増加(21.5%)となり、いわゆるつぼ型を形成する構成となった。

社人研推計(一部再計算)では、今後も年少人口及び生産年齢人口の減少が続き、2060年には、2010年に比べて、年少人口が3.9ポイントの減少(9.1%)、老年人口が18.0ポイントの増加(39.5%)となり、下すぼみのつぼ型に向かっていく見込みとなる。(図1、図2)

図2 年齢別人口構成



資料：総務省「国勢調査」、「人口推計」、社人研「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(一部再計算)
(2040～2060年は、まち・ひと・しごと創生本部提供資料に基づき算出したもの。)

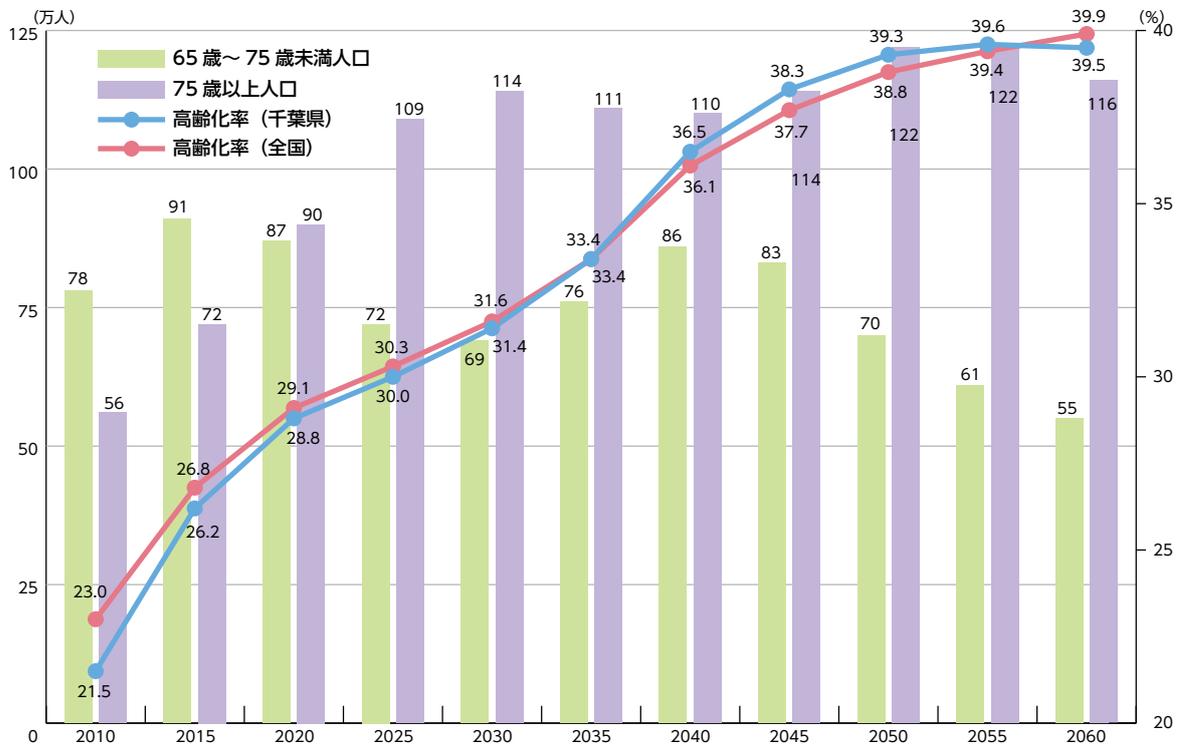
○高齢化の状況

本県の2014年の高齢化率[※]は25.3%であり、これは全国で10番目に低い数値であるが、65歳以上人口の対前年増加率は、全国2位(4.4%)となっている。

社人研推計(一部再計算)では、今後、急速に高齢化が進行し、高齢化率は2040年には36.5%まで上昇(2.7人に一人が高齢者)し、全国を上回る見込みとなる。その後、2055年には39.6%まで上昇し、2060年には全国を下回るものの、39.5%(2.5人に一人が高齢者)となる見込みとなる。(図3)

※高齢化率：総人口に占める65歳以上人口の割合

図3 高齢化の状況



資料：社人研「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」
 社人研「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(一部再計算)
 (2040～2060年は、まち・ひと・しごと創生本部提供資料に基づき算出したもの。)

I 千葉県の人口の状況分析

(2) 人口動態の分析

①

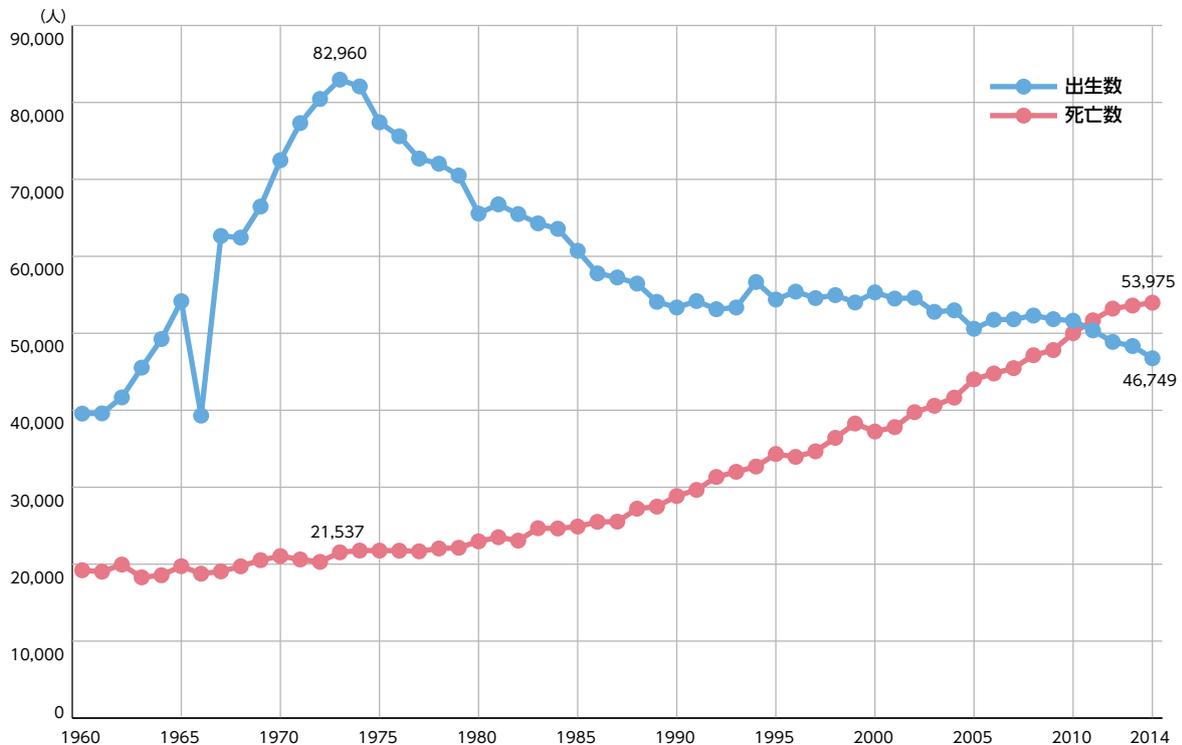
自然増減*

○出生数・死亡数の推移

本県における出生と死亡による自然増減の状況をみると、自然増は、1973年をピークに縮小傾向にあり、2011年には死亡数が出生数を上回り、自然減となった。(図4)

※自然増減：出生と死亡による人口の増減

図4 出生数・死亡数の推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」

○合計特殊出生率^{*}、未婚率、平均初婚年齢^{*}、出生順位ごとの平均年齢(母)の推移

本県の合計特殊出生率は、1985年から全国平均を下回り、2014年は1.32となっている。出生数は、1973年の82,960人をピークに減少し、2014年は46,749人で、ピーク時の56.4%まで減少している。(図5)

生涯未婚率^{*}の推移をみると、男性の未婚率は全国とほぼ同様の動きであり、2010年には20.6%となっている(全国20.1%)。女性については、9.7%と全国(10.6%)より下回っているものの、増加の傾向にあり、未婚化が進展していることがわかる。(図6)

一方、平均初婚年齢をみると、1970年には男性27.1歳、女性24.4歳であったが、その後は年々上昇しており、2014年には男性31.4歳、女性29.5歳と、それぞれ全国(男性31.1歳、女性29.4歳)を上回っている。(図7、図8、図9)

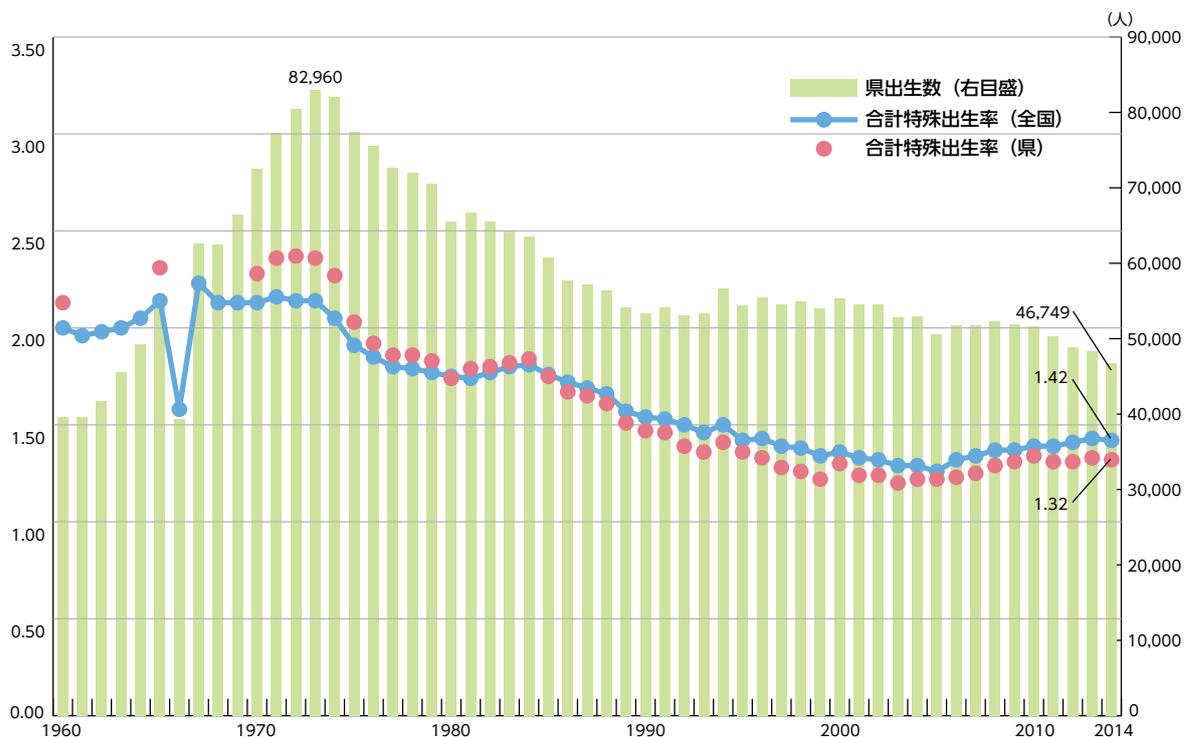
また、出生順位ごとの平均年齢(母)については、第1子、第2子、第3子のいずれにおいても、1970年代から全国を上回った状態で上昇傾向が続いている。(図10)

※合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した値で、一人の女性が一生の間に生む子どもの平均数

※平均初婚年齢：初めて結婚して同居を始めた年齢の平均値

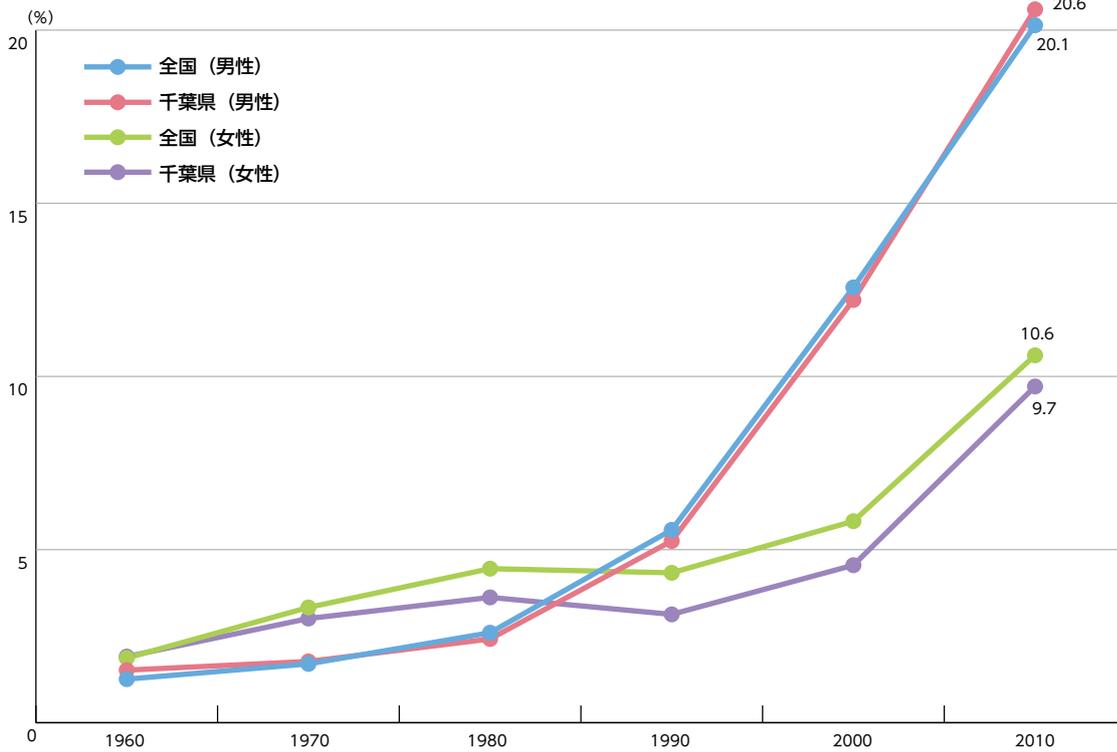
※生涯未婚率：50歳時の未婚率であり、45～49歳と50～54歳の未婚率の平均値

図5 合計特殊出生率・出生数の推移



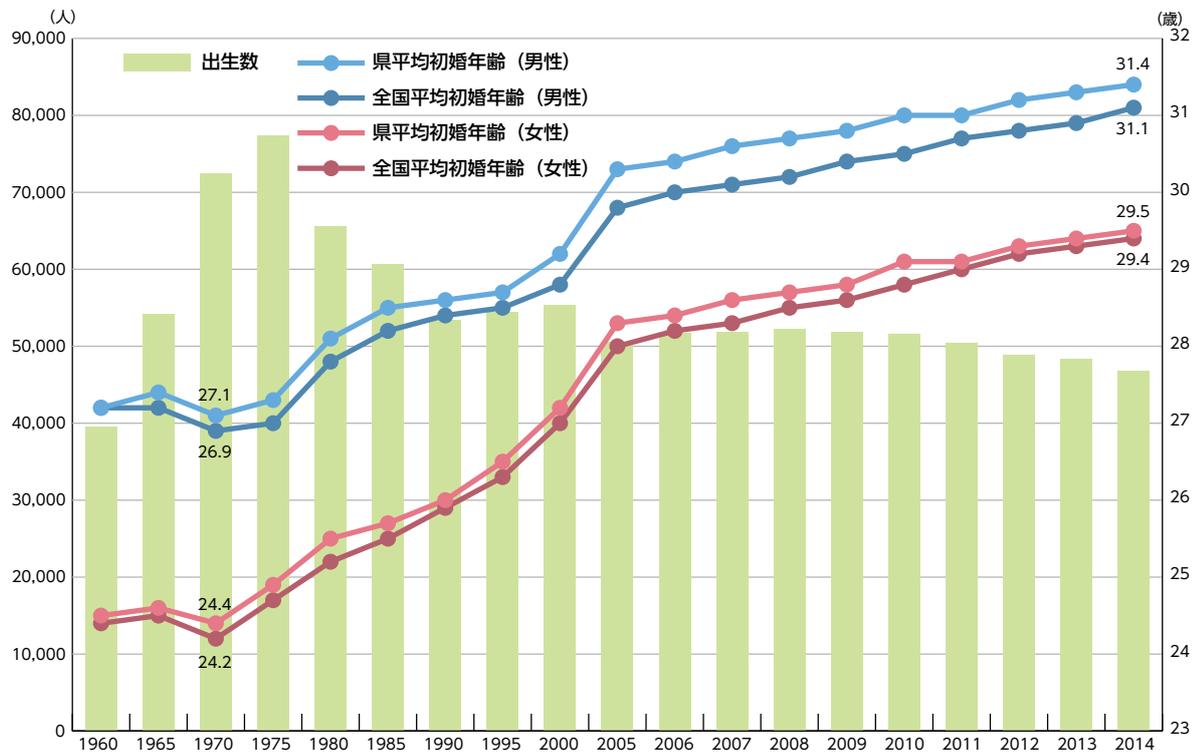
資料：厚生労働省「人口動態統計」、千葉県「衛生統計年報・人口動態調査」

図6 生涯未婚率の推移



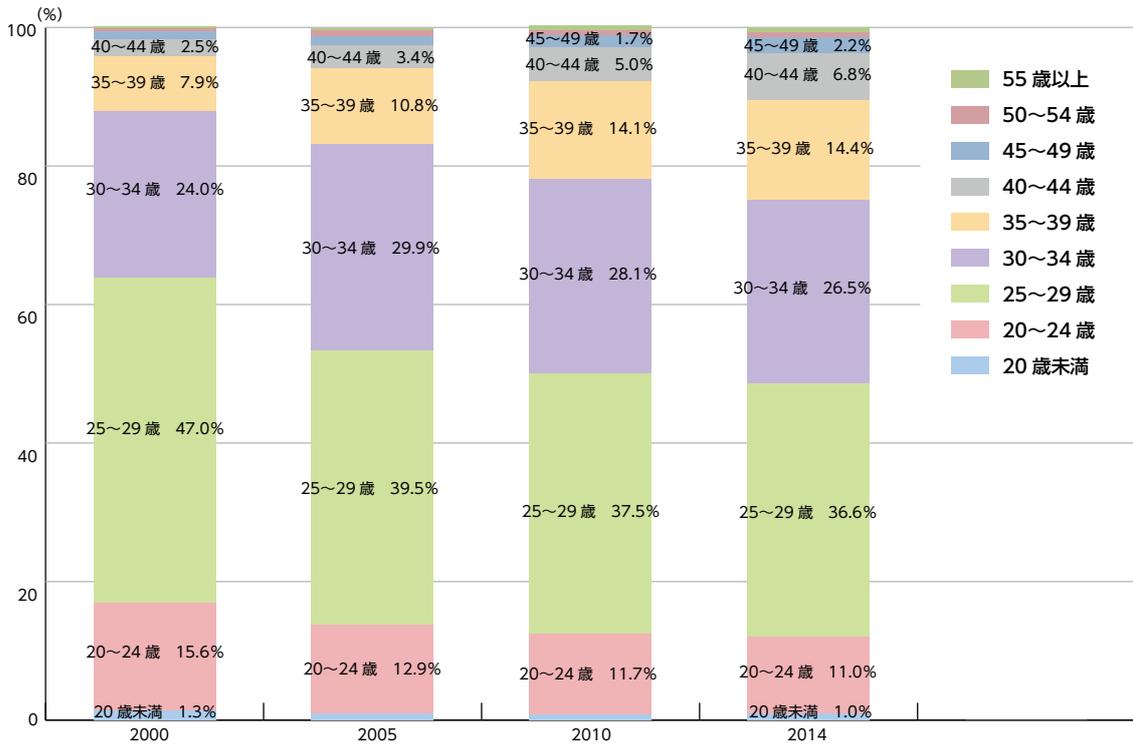
資料：社人研「人口統計資料集」

図7 出生数・平均初婚年齢の推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」

図8 初婚者の年齢（5歳階級）別割合の推移（夫）



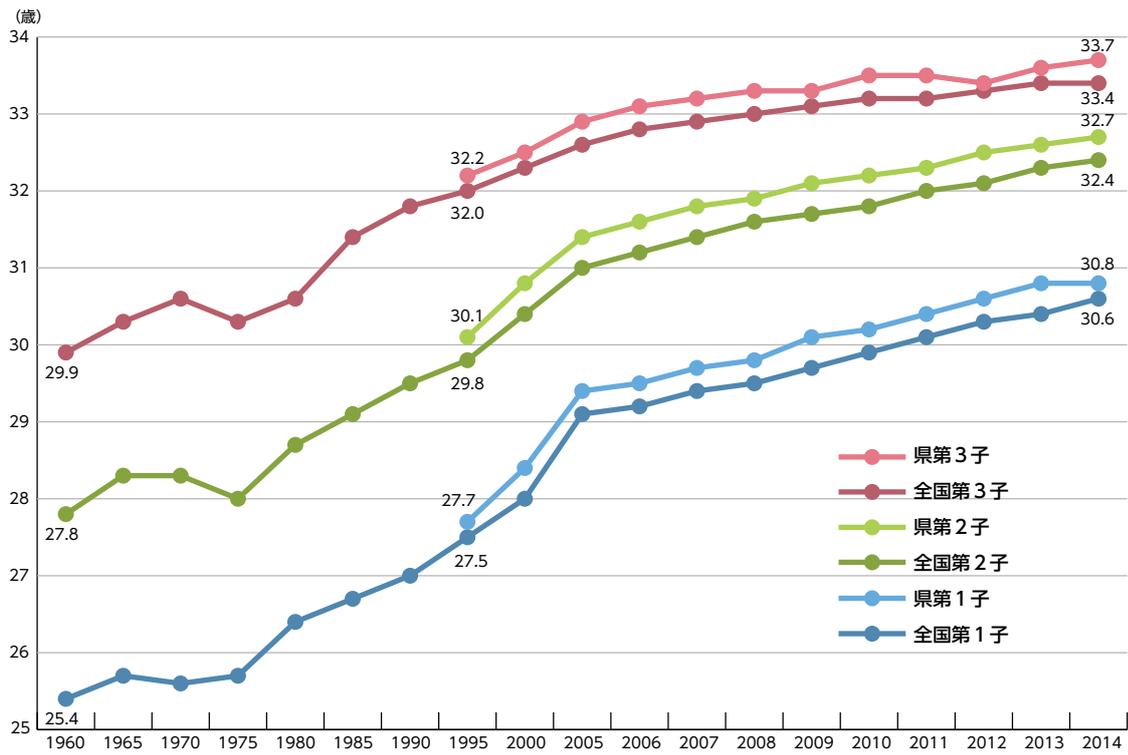
資料：千葉県「衛生統計年報」、厚生労働省「人口動態統計」

図9 初婚者の年齢（5歳階級）別割合の推移（妻）



資料：千葉県「衛生統計年報」、厚生労働省「人口動態統計」

図 10 出生順位ごとの平均年齢（母）の推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」
 なお、本県に係る出生時の平均年齢（母）については、平成5年以前はデータなし。

②

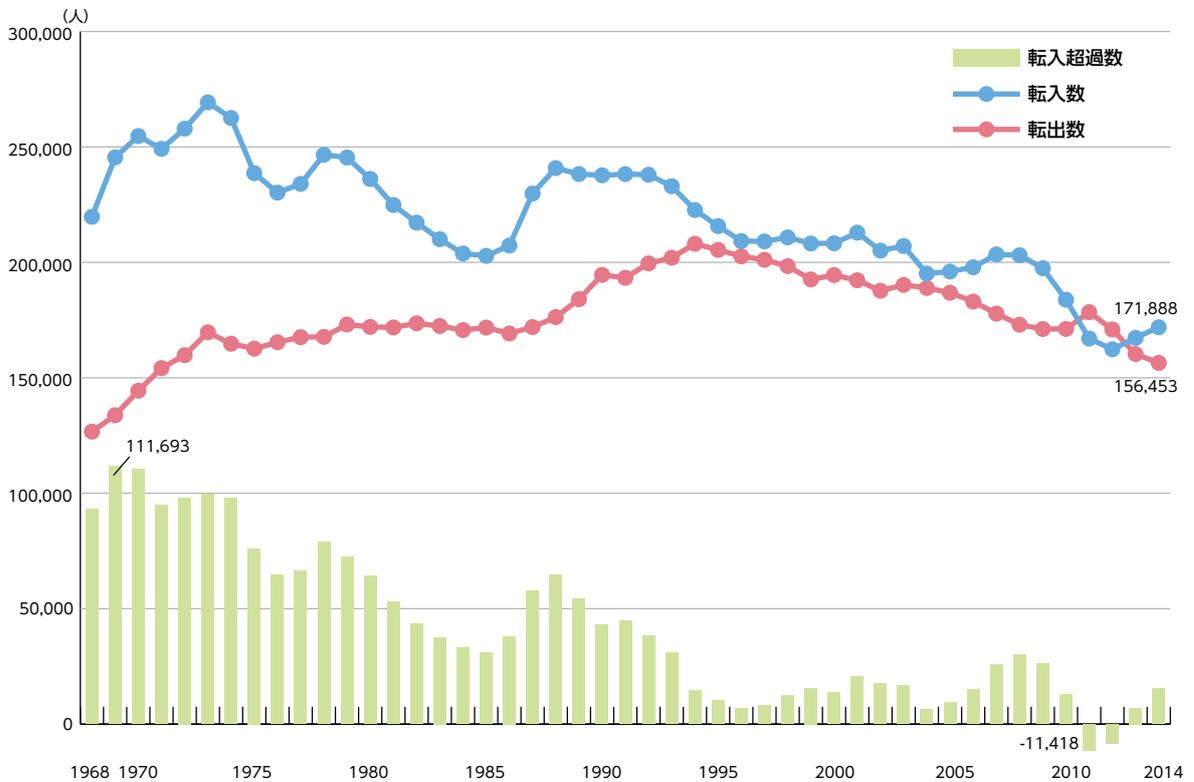
社会増減*

○転入・転出数の推移

本県における転入と転出による社会増減の状況をみると、統計データのある1968年以降、社会増は1969年をピークに、増減を繰り返しながら縮小傾向にあり、東日本大震災の起きた2011年には社会減となった。しかし、2013年には社会増となり、2014年には社会増の幅が拡大している。(図11)

※社会増減：ある地域の人口が、他の地域からの転入、あるいは他の地域への転出によって生じる増減

図11 転入・転出数の推移



資料：「千葉県毎月常住人口調査」

○社会移動の状況

本県における過去20年の社会移動の状況をみると、転入超過数は248,848人となっている。(別表1)

転入超過数の内訳をみると、外国人が81,522人と最も多くなっており、外国人を除いた場合、本県への転入超過数は、大阪府、北海道、宮城県、兵庫県、福島県、福岡県の順に多く、一方、東京都、国外、神奈川県に対しては、転出超過となっている。(別表2、別表3)

また、千葉県と東京圏(千葉県を除く)の間では、近年、東京都に対しては転出超過の傾向にあり、埼玉県及び神奈川県に対しては、年によって社会移動の状況が異なっている。(図13)

別表1 過去20年間の転入超過数の状況(1995～2014)

(単位：人)

	転入数	転出数	転入超過数
県計	3,931,631	3,682,783	248,848

別表2 転入超過数の多い10都道府県等

(単位：人)

	転入	転出	転入超過数
外国人 ^{※1}	447,376	365,854	81,522
大阪府	139,424	114,285	25,139
北海道	115,324	94,722	20,602
宮城県	70,520	56,676	13,844
兵庫県	83,341	70,142	13,199
福島県	49,323	37,254	12,069
福岡県	83,959	73,685	10,274
新潟県	47,520	37,453	10,067
埼玉県	313,434	303,386	10,048
青森県	36,246	28,009	8,237

別表3 転入超過数の少ない10都道府県等

(単位：人)

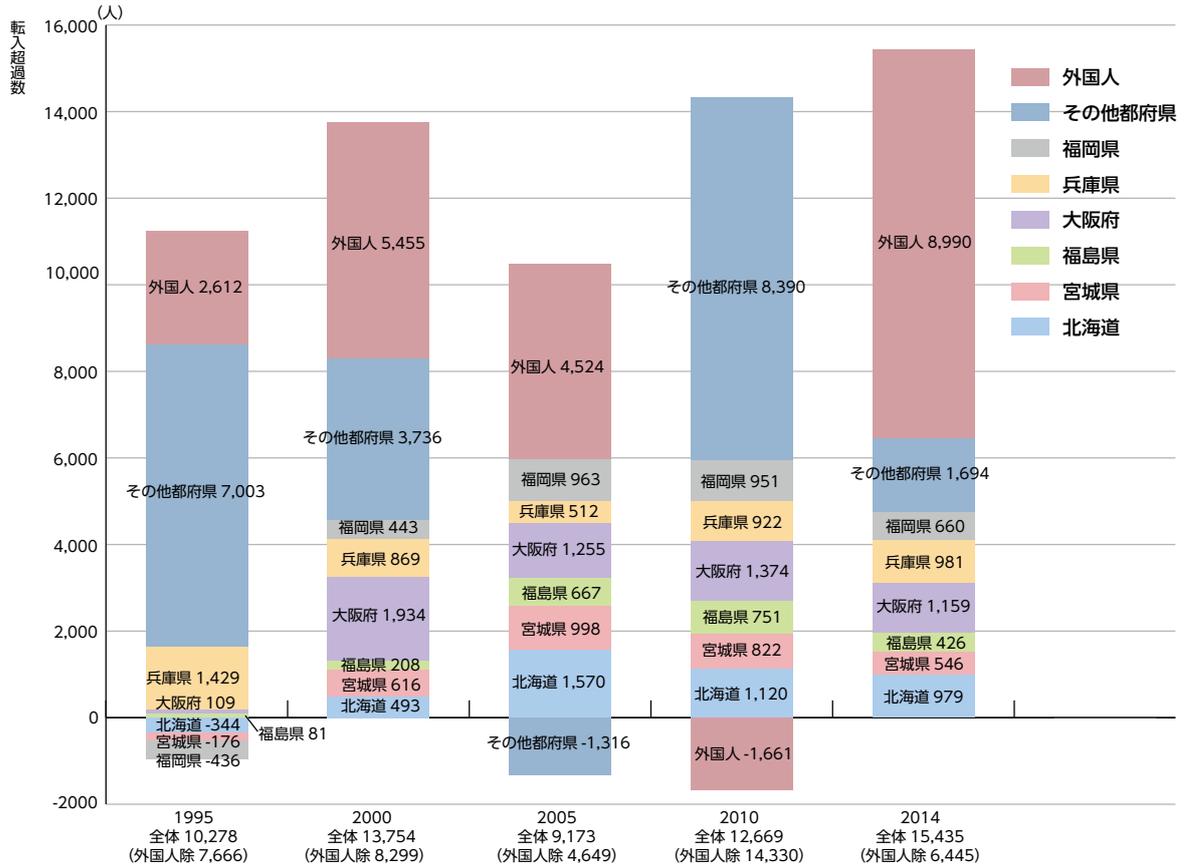
	転入	転出	転入超過数
香川県	12,174	10,779	1,395
福井県	6,862	5,478	1,384
徳島県	7,191	5,831	1,360
高知県	6,674	5,449	1,225
佐賀県	7,236	6,211	1,025
鳥取県	5,155	4,199	956
島根県	5,363	4,859	504
神奈川県	363,162	366,073	-2,911
国外 ^{※2}	175,765	186,641	-10,876
東京都	1,011,026	1,064,374	-53,348

資料：「千葉県毎月常住人口調査」

※1 外国人における、本県と県外(国外を含む)との間での移動者数

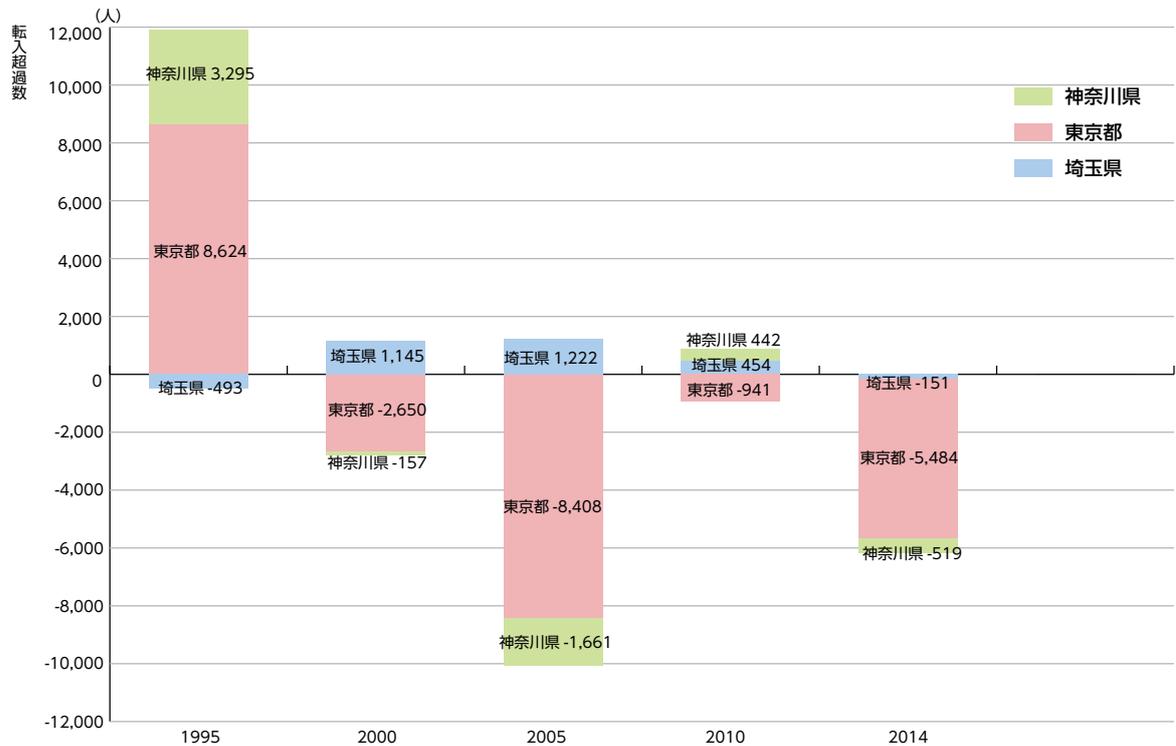
※2 日本人における、本県と国外との間での移動者数

図 12 社会移動の状況 (千葉県)



資料：「千葉県毎月常住人口調査」

図 13 千葉県と東京圏 (千葉県を除く) との社会移動の状況



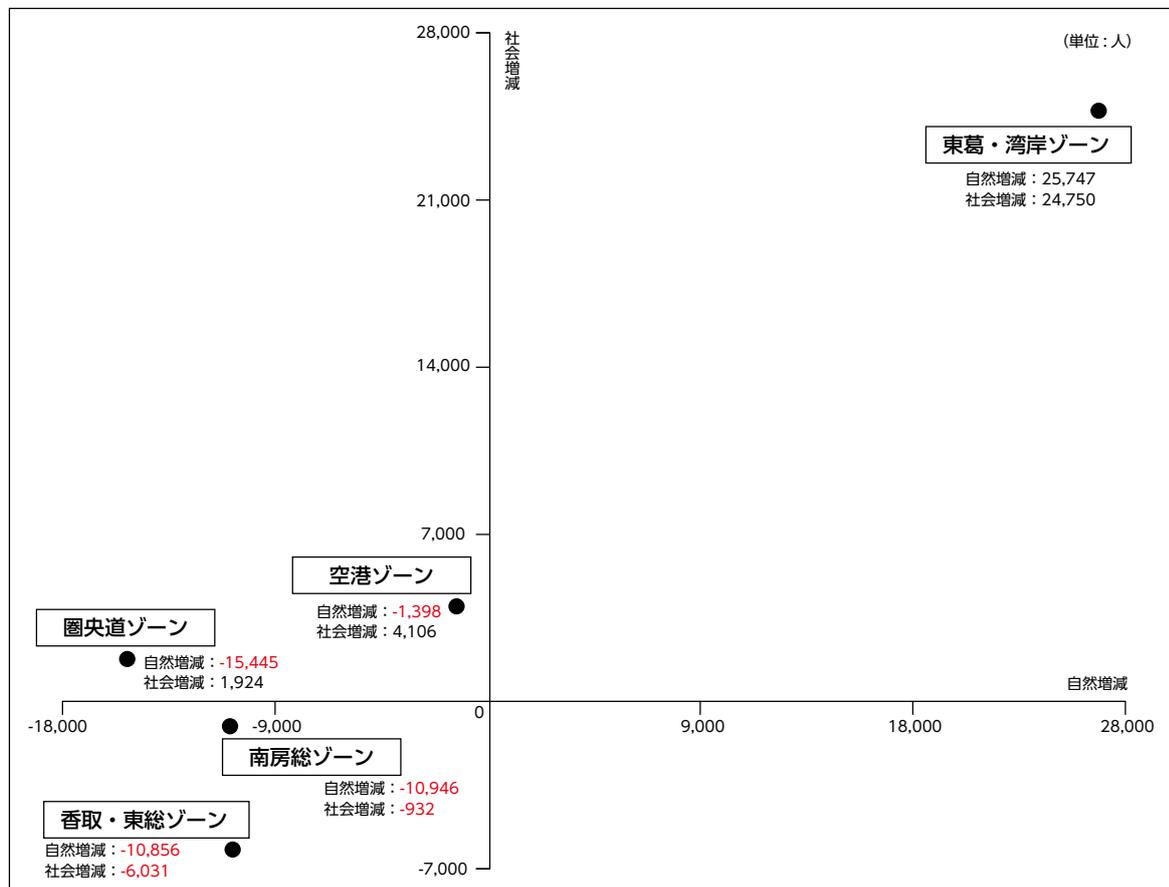
資料：「千葉県毎月常住人口調査」

③ 県内各地域の状況

県内各地域の状況としては、直近5年の人口動態を基にすると「自然増かつ社会増となっている地域(東葛・湾岸ゾーン)」、「自然減だが社会増となっている地域(空港ゾーン、圏央道ゾーン)」、「自然減かつ社会減となっている地域(香取・東総ゾーン、南房総ゾーン)」に分類することができる。(図14)

また、高齢化率については、県内各地域において、平成2年から22年までの間で10ポイント以上上昇している。なお、南房総ゾーンにおいては、3人に1人が高齢者となっている状況である。(図15)

図14 県内各ゾーンの人口動態の状況

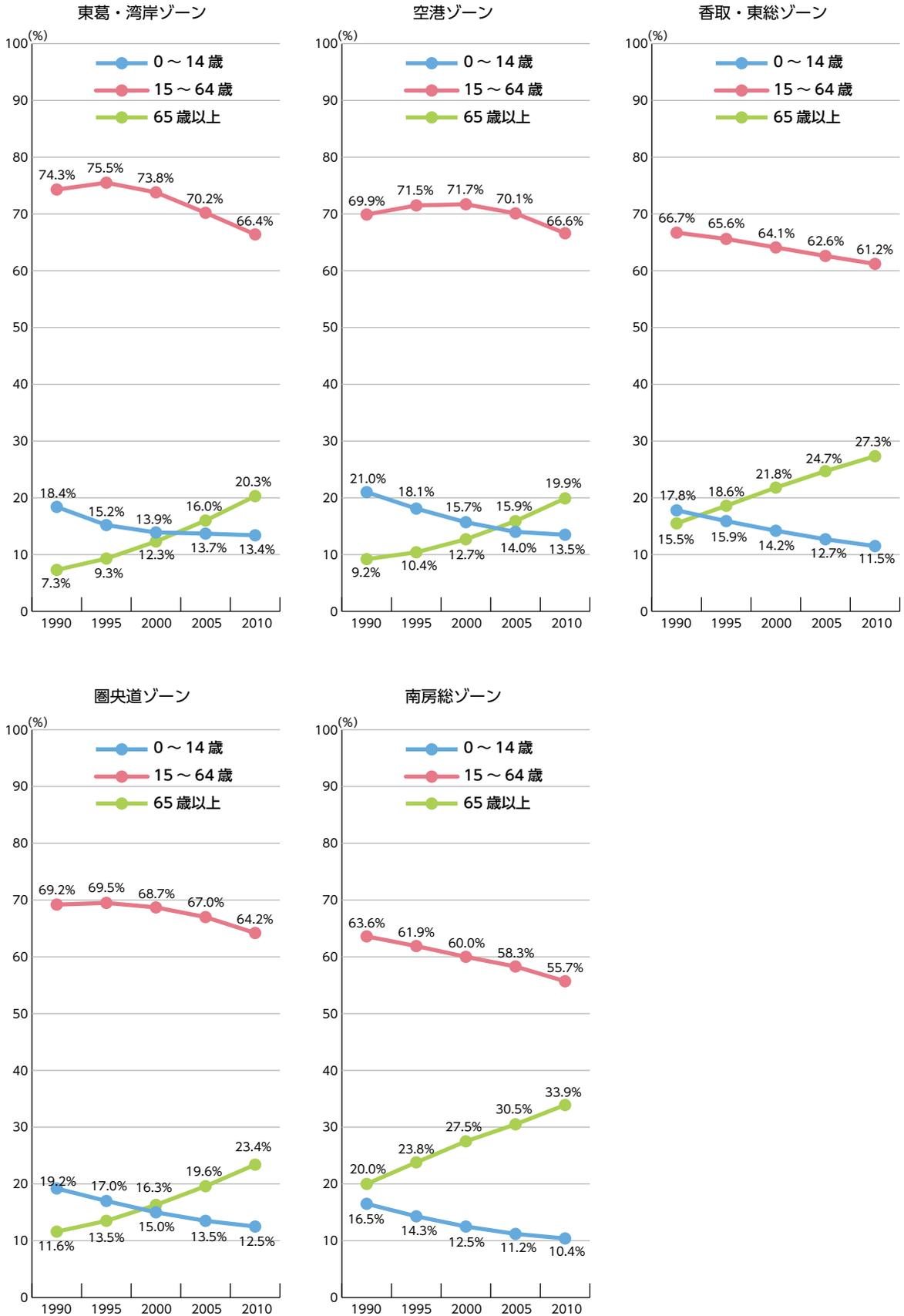


資料：平成22年～26年「千葉県毎月常住人口調査」

※各ゾーンについては、千葉県総合計画「新輝け！ちば元気プラン」の「地域の方向性」に基づくものであり、各ゾーンの数値については、それぞれ下記の市町村のデータを用いている。

- 東葛・湾岸ゾーン：千葉市、市川市、船橋市、松戸市、野田市、習志野市、柏市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ケ谷市、浦安市
- 空港ゾーン：成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町、芝山町
- 香取・東総ゾーン：銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、神崎町、多古町、東庄町
- 圏央道ゾーン：木更津市、茂原市、東金市、市原市、君津市、富津市、袖ケ浦市、山武市、大網白里市、九十九里町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町
- 南房総ゾーン：館山市、勝浦市、鴨川市、南房総市、いすみ市、大多喜町、御宿町、鋸南町

図 15 ゾーン別 年齢 3 区分別人口構成の推移



資料：総務省「国勢調査」

④

産業人口の状況

本県の産業人口の状況をみると、全体としては、「卸売業、小売業」、「製造業」、「医療、福祉」の順に就業者数が多く、これを男女別にみると、男性は「卸売業、小売業」、「製造業」、「建設業」の順に、また女性は「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」の順に就業者が多くなっている。

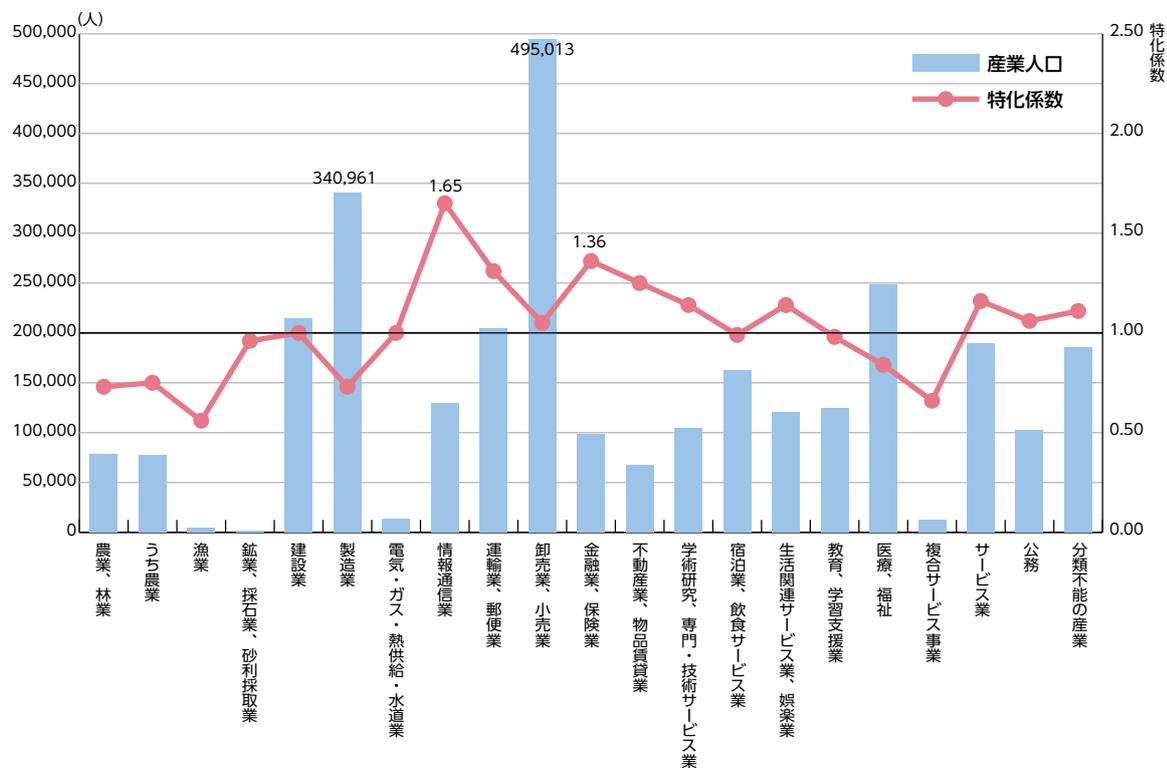
産業別特化係数*をみると、全体としては「情報通信業」、「金融業、保険業」、「運輸業、郵便業」が高く、男女別にみると、男性は「情報通信業」、「金融業、保険業」、「不動産業、物品賃貸業」が、また女性は、「運輸業、郵便業」、「情報通信業」、「金融業、保険業」が高くなっている。(図16、図17)

年齢階級別産業人口の状況をみると、農業、漁業においては、60歳以上が約6割を占めており、就業者の高齢化が見られる。(図18)

※産業別特化係数：本県のX産業の就業者比率／全国のX産業の就業者比率

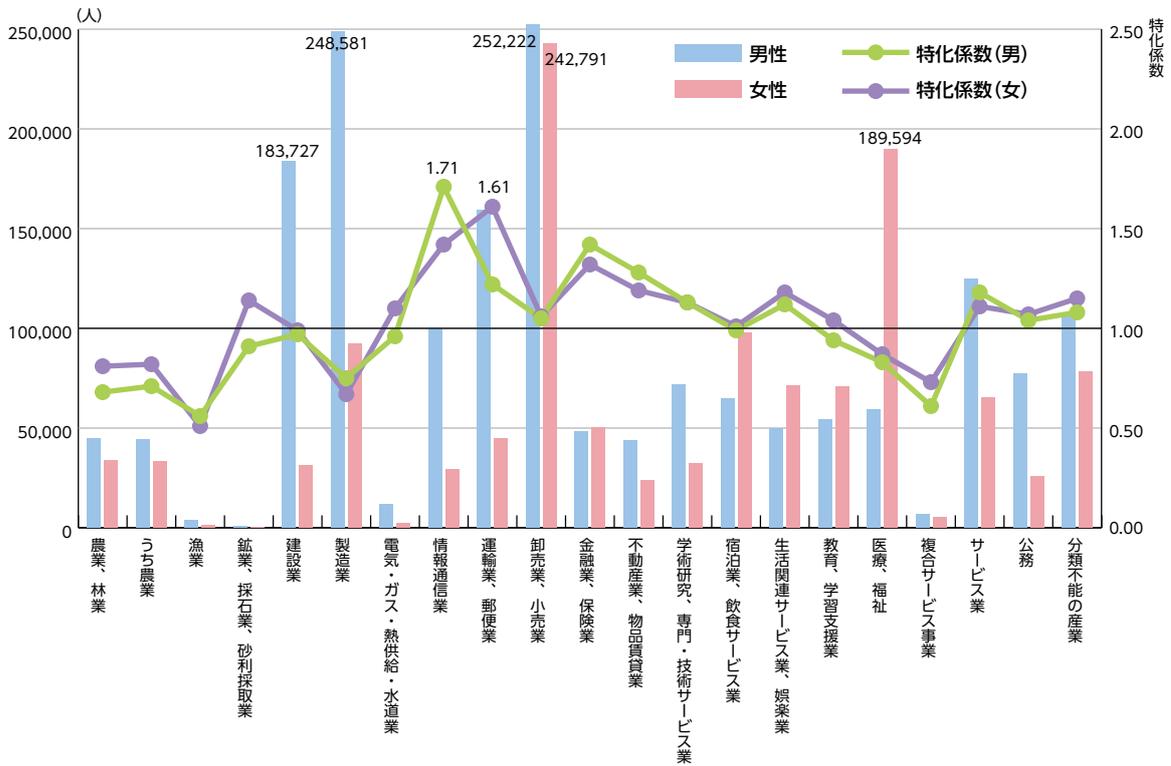
(1を超える場合、本県における当該産業の就業者比率が全国の比率より高いことを示す。)

図16 産業人口 (2010年)



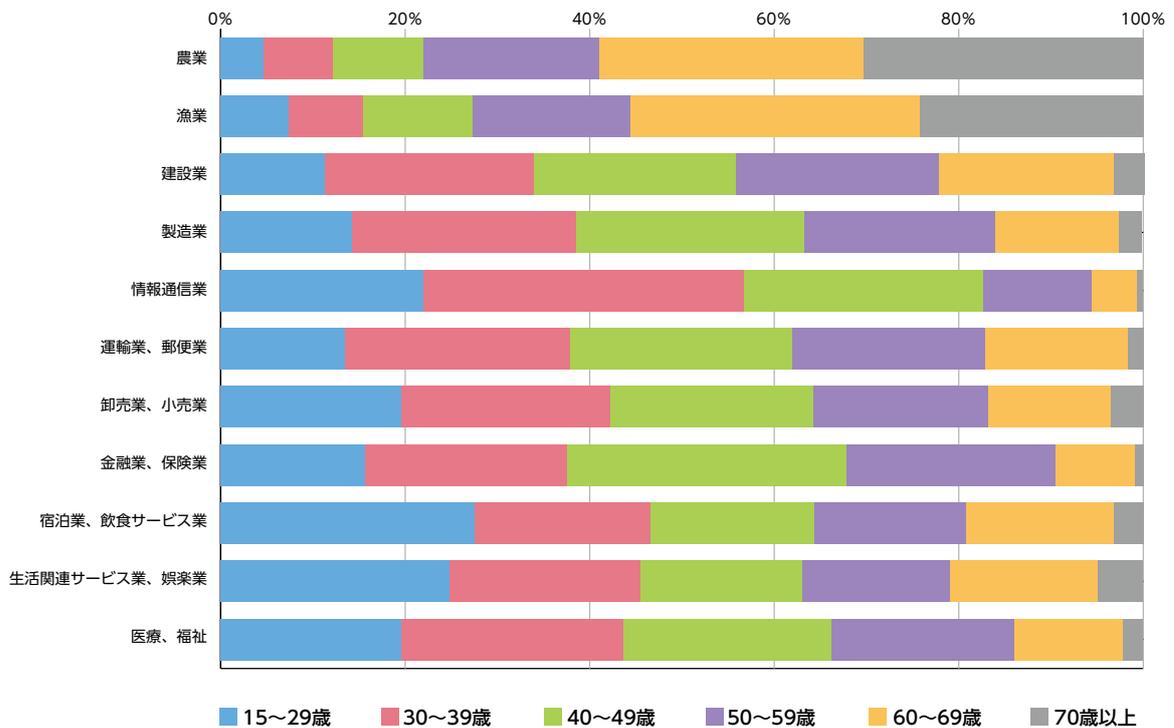
資料：総務省「国勢調査」

図 17 男女別産業人口 (2010 年)



資料：総務省「国勢調査」

図 18 年齢階級別産業人口 (2010 年)



資料：総務省「国勢調査」

⑤ 人口減少が将来に与える影響

人口減少や人口減少に伴う人口構成の変化により、様々な分野において、下記のような影響が生じることが考えられる。

(地域社会・インフラ)

- ◆都市や集落の機能低下
- ◆道路、上下水道など既存インフラの維持の困難化
- ◆地域公共交通の縮小
- ◆空き家、空き店舗の増加

(経済・雇用)

- ◆生産年齢人口の減少に伴う労働力不足
- ◆従業員の年齢構成のアンバランス化による円滑な技能継承の阻害
- ◆後継者不足による事業承継の困難化

(農林水産業)

- ◆担い手の高齢化と後継者不足
- ◆耕作放棄地の増加
- ◆森林の荒廃

(医療・福祉)

- ◆現役世代における社会保障関連経費の負担増加
- ◆医療、福祉、介護人材の不足

(教育)

- ◆子どもたちが規範意識やコミュニケーション能力を身につける機会の減少
- ◆学校存続の困難化

I 千葉県の人口の状況分析

(3)

県民の希望 (アンケート調査より)

○結婚・妊娠・出産に関する調査

本県の合計特殊出生率は、1.32と、全国平均の1.42を下回っているが、内閣府の実施した「結婚・家族形成に関する意識調査」によると、全国では、結婚を希望する人の割合は77.7%、また、希望する子どもの数は2.2人であり、傾向としては、本県在住者を抽出した場合でも、全国とほぼ同様となっている。

一方、昨年度及び今年度、本県で大学生を対象に実施した「妊娠・出産に関する正しい知識を普及するためのセミナー」におけるアンケートで、「晩婚」「未婚」が増えている理由としては、「仕事(学業)に打ち込みたいから(62.1%)」という回答のほか、「経済的な余裕がないから(48.5%)」と将来の生活を心配する回答が多くあった。

また、今後、子どもを持つと考えた場合に求める条件としては、「働きながら子育てができる環境にあること(57.0%)」、「配偶者の家事・育児への協力が得られること(44.0%)」、「地域の保育サービスが整うこと(43.6%)」などが挙げられている。

◆結婚・家族形成に関する意識調査

- 結婚を希望する人の割合：国 77.7% 県 75.4%
- 理想の結婚年齢：国 27.7歳 県 27.3歳
- 希望する子どもの数：国 2.2人 県 2.2人

【備考】●平成26年12月 国実施 回答数2,643人(うち本県在住者123人)

◆妊娠・出産に関する正しい知識を普及するためのセミナーにおける参加者アンケート

○「晩婚」「未婚」が増えている理由として考えられるもの(複数回答)

- 仕事(学業)に打ち込みたいから：62.1%
- 経済的に余裕がないから：48.5%
- 独身の自由さや気楽さを失いたくないから：44.3%
- 結婚の必要性を感じていないから：40.3%
- 異性と知り合う(出会う)機会がないから：35.3%

○今後、子どもを持つと考えた場合、求める条件(複数回答)

- 働きながら子育てができる環境にあること：57.0%
- 配偶者の家事・育児への協力が得られること：44.0%
- 地域の保育サービスが整うこと(保育所や一時預かりなど)：43.6%
- 健康上の問題がないこと：32.6%
- 雇用が安定すること：29.1%

【備考】●平成26年度、27年度 県実施 回答数818人 ●大学生対象

○本県から転出した女性を対象とした調査

本県から転出した女性を対象に、千葉県への再居住に関するアンケートを行ったところ、53.1%が本県への再居住希望を持っているという結果が出た。

この結果を受け、アンケート回答者を対象に、本県への再居住希望の理由や再居住希望のない理由、住まいを選ぶ際に重視する点等について追跡調査を行ったところ、再居住希望の理由としては、「交通利便性が良いから」、「家族や親戚、知人、友人のいる環境で暮らしたいから」、「都会に近いから」が上位に挙げられており、子どもを持つ層については、上記のほか、「商業・レジャー施設が充実しているから」、「子育て環境が充実しているから」の回答が多かった。

一方、本県への再居住希望がない理由としては、（今住んでいるところの方が）「交通利便性がいい」、「都会に近い」といった理由が上位となっている。

なお、再び千葉県に住むことを検討する場合、自治体の取組で必要なこととして、『子育て』に関する取組では、「保育サービスの充実（延長保育など）」、「待機児童の解消」、「子ども医療費助成制度の拡大」が重要視されており、『教育』に関する取組では、「教育水準の高さ」、「いじめ等に対する相談機能の充実」、「少人数学級によるきめ細かい教育環境づくり」が重要視されている。また、『医療・高齢者福祉』に関する取組では、「救急医療体制の充実」、「かかりつけ医体制の整備」、「産科・小児科医療の充実」が重要視されている。

◆人口減少・少子高齢化に対応した施策検討に係る調査

○本県から転出した女性のうち、本県への再居留意向を持つ人の割合

- 千葉県にふたたび「とても住みたい」：23.7%
- 千葉県にふたたび「やや住みたい」：29.4%

53.1%

○将来ふたたび千葉県に住みたいと思う理由（複数回答）

- 別表4のとおり

○将来ふたたび千葉県に住みたいと思わない理由（複数回答）

- 別表5のとおり

○再び千葉県に住むことを検討する場合、自治体の取組で必要なこと（複数回答）

『子育て』に関する取組

- 保育サービスの充実（延長保育など）：43.7%
- 待機児童の解消：35.7%
- 子ども医療費助成制度の拡大：28.3%
- ワークライフバランスの推進：24.5%
- 子育て情報提供体制の整備：17.0%

『医療・高齢者福祉』に関する取組

- 救急医療体制の充実：55.8%
- かかりつけ医体制の整備：42.3%
- 産科・小児科医療の充実：39.8%
- 高齢者向け施設サービスの充実：19.2%
- 地域で高齢者を支える体制の整備：15.1%

『教育』に関する取組

- 教育水準の高さ：37.6%
- いじめ等に対する相談機能の充実：36.5%
- 少人数学級によるきめ細かい教育環境づくり：24.7%
- 学校施設の充実、耐震化の促進：18.7%
- 道徳教育の充実：17.9%

【備考】（平成26年10月 県実施 回答数1,000人）
（平成27年6月 追跡調査実施 回答数364人）
（本県から転出した女性対象）

別表4 将来ふたたび千葉県に住みたいと思う理由

(単位：%)

	回答数 (n)	交通利便性が良い	家族や親戚、知人、友人がいる	都会に近い	住み慣れた土地	住宅価格・家賃が適当	商業・レジャー施設が充実	土地や家屋をもっている	自然が豊か	まちのイメージが良い	職場・学校に近い	子育て環境が充実	医療環境が充実	就職先が充実	教育環境が充実	福祉環境が充実	近所付き合いが盛ん	
		全体	179	40.8	29.1	26.3	24.6	21.8	20.1	17.9	14.0	11.7	7.3	7.3	4.5	2.8	2.2	1.7
年齢	20歳代	41	46.3	24.4	26.8	36.6	22.0	7.3	19.5	9.8	14.6	4.9	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	-
	30歳代	80	33.8	33.8	22.5	21.3	25.0	27.5	16.3	11.3	7.5	8.8	11.3	5.0	3.8	1.3	1.3	2.5
	40歳以上	58	46.6	25.9	31.0	20.7	17.2	19.0	19.0	20.7	15.6	6.9	5.2	5.2	1.7	3.4	1.7	1.7
就業・就学	フルタイム就業	72	34.7	26.4	26.4	31.9	27.8	12.5	22.2	13.9	13.9	8.3	4.2	-	2.8	2.8	2.8	1.4
	パートタイム就業	33	36.4	36.4	24.2	33.3	18.2	33.3	18.2	9.1	3.0	6.1	12.1	6.1	-	3.0	-	-
	無職・専業主婦・学生	74	48.6	28.4	27.0	13.5	17.6	21.6	13.5	16.2	13.5	6.8	8.1	8.1	4.1	1.4	1.4	2.7
家族構成	一人暮らし等	35	42.9	25.7	28.6	25.7	22.9	14.3	31.4	17.1	8.6	5.7	-	-	-	-	5.7	2.9
	夫婦のみ	60	43.3	31.7	26.7	26.7	18.3	18.3	18.3	15.0	8.3	1.7	5.0	-	1.7	1.7	-	-
	二世帯同居(親と子)	79	36.7	30.4	25.3	22.8	17.7	24.1	12.7	10.1	8.9	7.6	13.9	6.3	6.3	3.8	-	2.5
	三世帯同居(祖父母と親と子)	5	60.0	-	20.0	20.0	20.0	20.0	-	-	40.0	-	20.0	-	-	-	-	-
子どもの属性	子どもはいない	104	42.3	30.8	26.0	28.8	25.0	18.3	22.1	16.3	11.5	7.7	1.0	2.9	1.9	1.0	2.9	1.0
	就学前	47	38.3	31.9	25.5	21.3	19.1	12.8	17.0	8.5	8.5	6.4	12.8	6.4	4.3	2.1	-	4.3
	小中学生	23	39.1	13.0	26.1	13.0	8.7	47.8	8.7	17.4	13.0	4.3	30.4	4.3	-	8.7	-	-
	高校生以上	6	33.3	33.3	33.3	50.0	-	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	33.3	-	-

別表5 将来ふたたび千葉県に住みたいと思わない理由

(単位：%)

	回答数 (n)	今住んでいるところの方が(今住んでいるところに)																		
		交通利便性がいい	都会に近い	土地・家屋をもっている	商業・レジャー施設が充実	職場・学校に近い	まちのイメージが良い	親戚、知人、友人がいる	医療環境が充実	自然が豊か	住み慣れている	住宅価格・家賃が適当	子供の教育や親の介護等の事情	子育て環境が充実	就職先が充実	福祉環境が充実	近所付き合いが盛ん	教育環境が充実	その他	
全体	77	42.9	41.6	27.3	26.0	23.4	23.4	19.5	16.9	16.9	15.6	10.4	9.1	9.1	7.8	5.2	5.2	2.6	7.8	
年齢	20歳代	9	11.1	33.3	22.2	11.1	22.2	11.1	22.2	-	22.2	22.2	-	22.2	-	11.1	-	11.1	-	-
	30歳代	29	44.8	41.4	27.6	27.6	27.6	13.8	17.2	13.8	10.3	10.3	13.8	10.3	6.9	-	6.9	-	-	
	40歳以上	39	48.7	43.6	28.2	28.2	20.5	23.1	23.1	20.5	17.9	17.9	7.7	7.7	5.1	10.3	7.7	5.1	2.6	15.4
就業・就学	フルタイム就業	21	42.9	42.9	23.8	14.3	42.9	14.3	23.8	4.8	19.0	19.0	4.8	4.8	-	9.5	-	-	-	9.5
	パートタイム就業	17	64.7	64.7	29.4	47.1	29.4	41.2	35.3	23.5	17.6	11.8	-	5.9	-	17.6	11.8	17.6	-	-
	無職・専業主婦・学生	39	33.3	30.8	28.2	23.1	10.3	20.5	10.3	20.5	15.4	15.4	17.9	12.8	17.9	2.6	5.1	2.6	5.1	10.3
家族構成	一人暮らし等	13	46.2	53.8	7.7	23.1	23.1	15.4	-	23.1	23.1	7.7	-	-	7.7	7.7	-	-	-	7.7
	夫婦のみ	27	55.6	51.9	44.4	29.6	33.3	22.2	14.8	29.6	11.1	11.1	3.7	7.4	3.7	14.8	3.7	7.4	-	-
	二世帯同居(親と子)	32	31.3	28.1	21.9	25.0	15.6	21.9	25.0	15.6	18.8	9.4	15.6	12.5	3.1	6.3	6.3	6.3	12.5	
	三世帯同居(祖父母と親と子)	5	40.0	40.0	20.0	20.0	20.0	40.0	20.0	-	20.0	60.0	20.0	-	40.0	-	-	-	-	20.0
子どもの属性	子どもはいない	47	46.8	46.8	36.2	25.5	27.7	21.3	19.1	19.1	17.0	17.0	6.4	4.3	4.3	10.6	6.4	6.4	-	4.3
	就学前	18	27.8	33.3	16.7	27.8	16.7	38.9	22.2	11.1	27.8	11.1	22.2	22.2	-	-	5.6	11.1	-	-
	小中学生	8	37.5	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5	-	12.5	12.5	12.5	37.5	25.0	-	-	-	12.5	25.0	
	高校生以上	5	40.0	20.0	-	40.0	20.0	20.0	20.0	40.0	-	20.0	20.0	-	-	-	20.0	-	-	40.0

○県内在学の高校生・大学生を対象とした調査

県内在学の高校生・大学生を対象に、将来の進学先・就職先等に関するアンケートを実施したところ、高校生の41.4%が就職後も県内に住み続けたいとの意向を持っており、進学希望者のうち39.9%が県内の大学・短大等に進学したいとの希望を持っている。

また、大学生の40.6%が就職後も県内に住み続けたいとの意向を持っており、44.9%が県内の勤務地に通いたいと考えている。

◆千葉県の地方創生に係るアンケート
【高校生】 <ul style="list-style-type: none"> ●(進学希望者のうち)県内の大学・短大等に進学したい:39.9% ●就職後も千葉県に住みたい:41.4% ●県内の勤務地に通いたい:30.4% 【大学生】 <ul style="list-style-type: none"> ●就職後も千葉県に住みたい:40.6% ●県内の勤務地に通いたい:44.9%
【備考】 ●平成27年7月 県実施 回答数 高校生1,164人、大学生799人 ●県内在学の高校生・大学生対象

○県内で住宅販売を行っている事業者を対象とした調査

県内で住宅販売を行っている事業者を対象に、居住地としての千葉県の「強み」と「弱み」等についてヒアリング調査を実施したところ、千葉県の「強み」としては、「地価が安く、安価な住宅を供給できる」、「潜在的なポテンシャルの高さ」が挙げられた。

一方、千葉県の「弱み」としては、「交通の利便性」が挙げられたが、「千葉県は、都心から、実際の所要時間よりも遠いというイメージを持たれている」という意見もあった。

◆人口減少・少子高齢化に対応した施策検討に係る調査
○千葉県の強み <ul style="list-style-type: none"> ●地価が安く、安価な住宅を供給できる(4社) ●潜在的なポテンシャルの高さ(1社) ○千葉県の弱み <ul style="list-style-type: none"> ●交通の利便性(4社) ●特になし(1社) ○その他意見 <ul style="list-style-type: none"> ●千葉県は、都心から、実際の所要時間よりも遠いというイメージを持たれている。 ●アクアラインバスによる通勤体制が整備されてきたことも「強み」 ●商業施設、医療施設も充実しつつある。 ●文化の発信が出来ていない。伝統的な素晴らしい文化がたくさんあるが、認識されていないため、もっと文化の発信を進めて行くべき。
【備考】 ●平成26年11月 県実施 調査対象5社 ●県内で住宅販売を行っている事業者へのヒアリング調査

II

人口の 将来展望

◆目指すべき将来の方向

- ①地方創生に向けた本県の基本的な考え方・・・24
- ②目指すべき将来の方向・・・・・・・・・・・・・・26
- ③千葉県の将来人口・・・・・・・・・・・・・・27

目指すべき将来の方向

① 地方創生に向けた本県の基本的な考え方

ア 本県が果たすべき役割

これまで、千葉は東京圏の一翼として、日本の発展を支えてきたところであるが、将来的にも、千葉県としては、

- 東京圏の一員として、日本の成長のエンジンであり続けること
- 急激な人口減少を克服するため、若い世代が希望どおり結婚・出産・子育てをすることができる環境を実現するとともに、人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応すること
- 日本のみならず世界をリードする「国際都市」へ発展すること

という役割を果たし、千葉の地方創生が、日本の創生につながるよう取組を進めていく必要がある。

イ 千葉の「強み」

本県が、日本の発展を支えていく上で、その役割を果たしていくためには、千葉の「強み」を最大限活用していくことが重要である。

本県は東京圏にある中、豊かな自然環境・魅力的な観光地・優れた都市機能を有している。また、日本の表玄関である成田国際空港(以下「成田空港」という。)及び貨物取扱量全国2位を誇る千葉港とともに、東京湾アクアライン(以下「アクアライン」という。)、首都圏中央連絡自動車道(以下「圏央道」という。)など優れた社会基盤を擁し、農業産出額全国3位の農業や海面漁業漁獲量全国8位の漁業、製造品出荷額等全国6位の工業、小売業年間商品販売額全国7位の商業といったハイレベルでバランスのとれた産業構造も有している。

こうした本県の持つそれぞれの「宝」を、最大限に活用することにより、人々の求める、様々な価値観に対応した「働く場」「子育ての場」「住まいの場」「憩いの場」を、千葉県という空間で提供することが可能であり、この総合力の高さこそが本県の「強み」といえる。

ウ 強みを生かした取組

本県の「強み」を生かし、本県の役割をしっかりと果たしていくことが、地方創生の目的である「急激な人口減少の歯止め」、「地域を活性化」、「人口減少社会における持続可能なまちづくり」を実現することとなる。

この実現のためには、行政のみならず、県民、企業などと本県の目指すべき姿を共有し、一丸となって取組を進めることが必要である。

このため、以下のとおり、目指すべき将来の方向を設定し、オール千葉体制で地方創生の実現に向けた取組を推進するものである。

②

目指すべき将来の方向

◎「暮らし満足度日本一」の千葉

「千葉で生まれてよかった」「住んでよかった」「働けてよかった」と誇れる「暮らし満足度日本一」を実現し、あらゆる世代が笑顔で住み続けられる千葉を目指す。

この実現のため、本県の「強み」を生かしつつ、次の3点の基本的方向を設定する。

1 国内外の人々が集う千葉の実現～人口の社会増～

人々に居住地として選ばれるには、様々な価値観に応じた「くらしの環境」のみならず、通勤可能な範囲内において「魅力ある雇用の場」があることが重要である。

こうした中、本県は、地理的優位性(東京への近接性、豊かな自然)、優れた社会基盤(成田空港、アクアライン、圏央道、千葉港等)及びバランスの取れた産業(全国上位に位置する農業、漁業、工業、商業)など、優れた資源を数多く有することから、本県の持つ資源をフルに活用し、県内における雇用の場の拡大を図るとともに、都心へのアクセス強化や地域間における交通の利便性向上を図ることにより、地域に住み働ける県づくりを進め、経済そして住の面から東京圏を支える。

また、オリンピック・パラリンピックに向けたソフト・ハード面における取組をオール千葉体制で推進し、多くの外国人が様々な目的のもと訪れ、暮らしやすい「国際都市」へ発展させる。

2 親子の笑顔が溢れる千葉の実現～少子化への挑戦～

本県は、優れた都市機能を有する地域とともに、豊かな自然に恵まれた地域を併せ持ち、子育てに係る多様な価値観に対応できる環境を有する。

こうした優位性を生かすとともに、結婚、妊娠、出産及び子育ての各段階における支援や、働きながら子育てしやすい環境や充実した教育環境の整備などにより、若い世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくりを進め、多くの人たちから「子どもを生ま育てるなら“千葉”」と選ばれる県を目指す。

3 オール千葉で支え合う安全・安心に暮らせる千葉の実現～人口減少に対応した県づくり～

人口減少や高齢化が進む中、様々な価値観を持つ人が、住みたい地域で元気に住み続けるためには、安全で安心して暮らせる環境を整えることが重要である。

そのため、医療・介護・福祉をはじめ、地域交通の確保、災害等の対応といった様々な分野におけるサービス機能の確保に向けた取組を進めるとともに、幅広い世代の人や県、市町村、民間企業、団体等が連携協力して地域を支えることにより、県民が健康で安全かつ安心に暮らすことができる県づくりを進める。

③

千葉県の将来人口

「目指すべき将来の方向」に基づく取組を進め、若い世代の結婚・出産・子育てや居住等に関する希望がかなえられた場合の、本県の将来人口について試算する。

なお、試算に当たっては、対象期間は、国の長期ビジョンと同様、2060年(平成72年)とし、これまでの本県の人口の状況分析や各種調査結果を踏まえ、自然増を図る上での大きな要素である合計特殊出生率と、社会増を図る上での大きな要素である社会移動について、以下のとおり条件を仮定し、社人研による推計方法に準拠して行った。(図19)

【パターン1】

合計特殊出生率について、本県在住者の希望する子どもの数(2.2人)が全国(2.2人)と同じであることから、国の長期ビジョンにおいて示された合計特殊出生率を共有し、2030年(平成42年)に1.8、2040年(平成52年)に2.07まで上昇すると仮定。

【パターン2】

【パターン1】の仮定に加え、2015年(平成27年)以降、転出者のうち23.7%※の人が、5年間で本県に戻ってくるものと仮定。

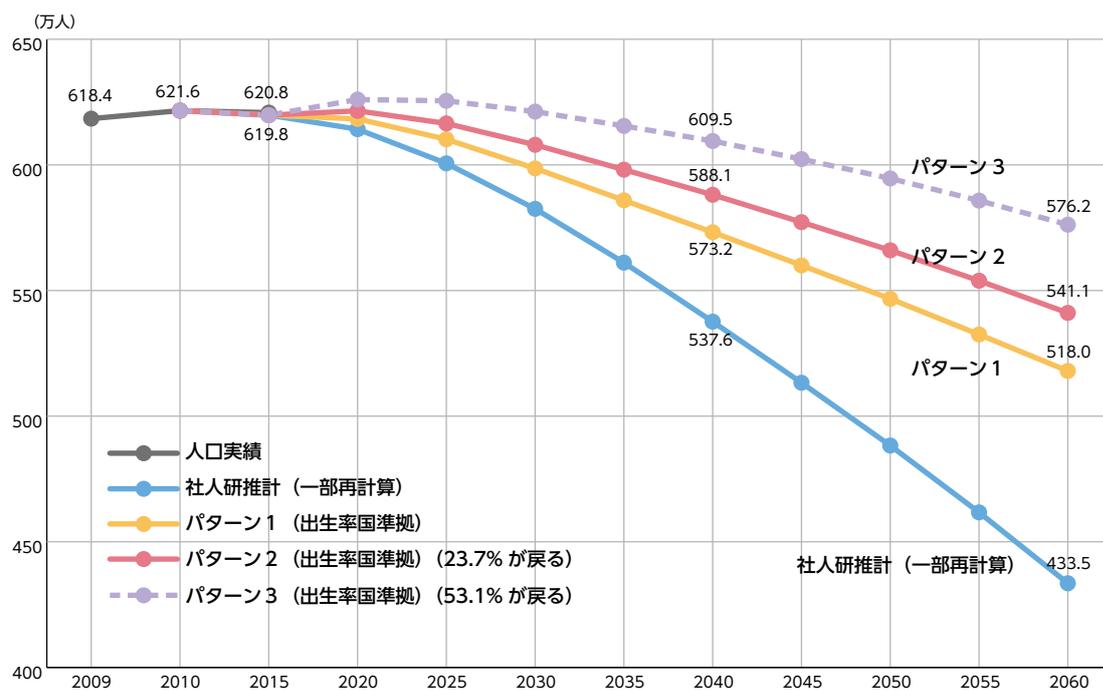
※千葉県への再居住に関するアンケートにおいて、千葉県に再び「とても住みたい」と回答した人の割合

【パターン3】

【パターン1】の仮定に加え、2015年(平成27年)以降、転出者のうち53.1%※の人が、5年間で本県に戻ってくるものと仮定。

※千葉県への再居住に関するアンケートにおいて、千葉県に再び「とても住みたい」、「やや住みたい」と回答した人の割合

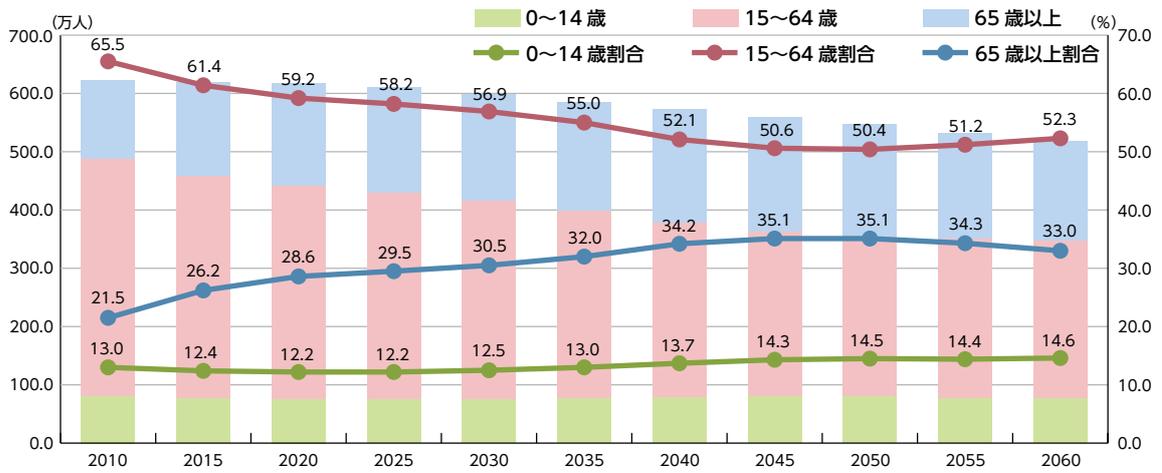
図19 将来人口の試算結果



※人口実績：千葉県毎月常住人口調査(各年10月1日現在)ただし、2015年については暫定値。

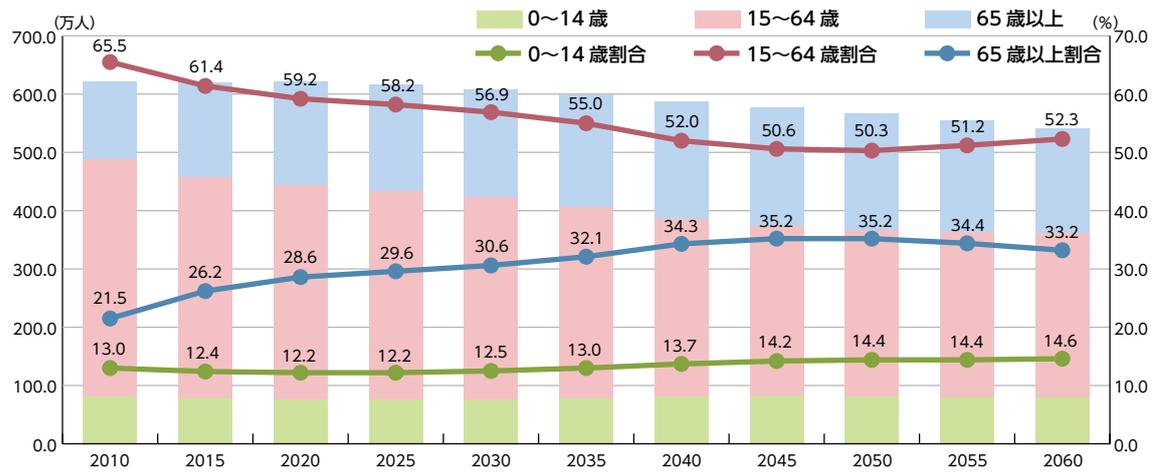
〈将来人口の試算結果（年齢3区分別）〉

【パターン1】



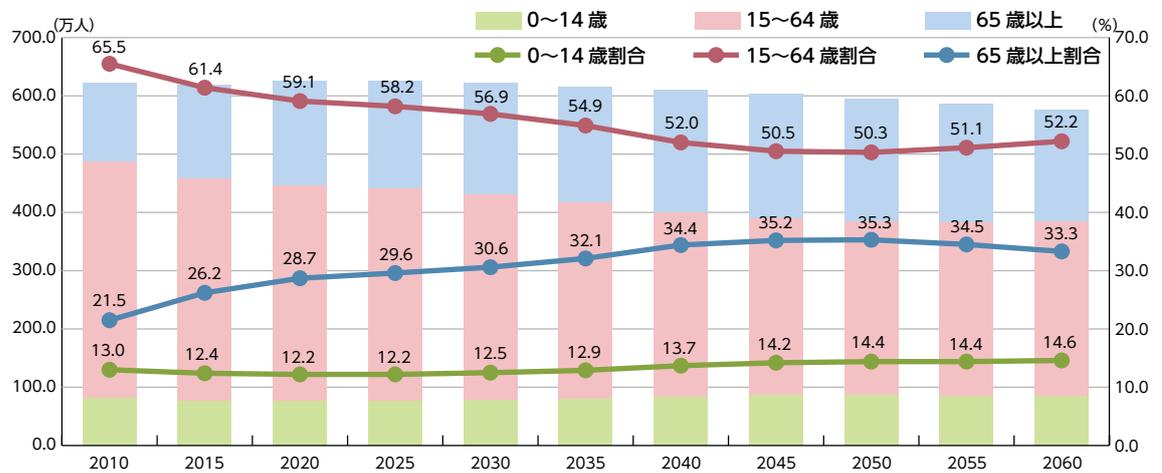
(端数処理の関係で、割合について合計が100にならないことがある。)

【パターン2】



(端数処理の関係で、割合について合計が100にならないことがある。)

【パターン3】



(端数処理の関係で、割合について合計が100にならないことがある。)

試算の結果、本県の将来人口は、再び本県に「とても住みたい」と思う方々の希望がかなえられた場合には541万人となる。

なお、再び本県に住みたいという積極性に差はあるが、「やや住みたい」と思う方々の希望がかなえられた場合には576万人となる。

以上のように、本県への再居住に係る希望がかなえられた場合には、急激な人口減少に歯止めをかけられる可能性があることがわかった。

このため、県民の就労や出産・子育てなどに係る希望がかなえられるよう、市町村や企業、団体などが一体となったオール千葉体制で、「『暮らし満足度日本一』の千葉」の実現に向けた取組を進めていく。

千葉県人口ビジョン

平成28年2月発行

千葉県総合企画部政策企画課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1
TEL:043-223-2483 FAX :043-225-4467

DTP制作・印刷
株式会社エリート情報社 印刷出版局

【表紙掲載写真】

上部左から：東京湾アクアライン、菜の花、佐原の町並みを楽しむ外国人観光客（提供：佐原商工会議所）、2015世界陸上競技選手権大会北京大会事前キャンプ（Juntendo International 2015・提供：佐倉市）、京葉臨海コンビナート、千葉県産の野菜、千葉県こども病院、特別養護老人ホームの交流スペースにおける地域活動（茂原市光風荘）



千葉県マスコットキャラクター チーバくん